

在宅でのPTの関わりについて～訪問を中心に～

松田 美可子

1. 訪問と入院の違い

環境…

頻度…

身体機能に対して…

生活の目標に対して…

他者との関わり…

※リハビリテーション実施にあたって、より具体的な生活内容や個別の事情が関係する。

2. 訪問と通所の違い

人数…

個別性…

他者との関わり…

時間…

目的…

※どちらも在宅におけるリハビリテーションであるが、目的が違う。

3. 訪問リハ（指導）の特性

☆生活の場で具体的な生活障害に対して、アプローチを行う事が出来る。

☆個人的な生活背景などを考慮しながら、アプローチを行う必要がある。

☆より個別の目的（目標）に向かって、支援が出来る。



QOLの向上が行いやすい方法…リハビリ専門職が最も活躍出来る場

4. 訪問リハ（指導）の役割

☆個別の生活を専門的に見ていく役割

☆在宅ケアチームの一員として、連携し伝える役割

（特にケアマネや包括支援センターとの連携必要。使用言語や見方の違

いに注意)

- ☆ 地域の中で果たさなければならない役割
(地域においてリハ的な考えを周知していく)

5. 訪問リハ（指導）の内容

- ☆ 廃用性症候群の予防と改善のための体操指導
- ☆ 基本的動作能力の維持・回復を目標とした動作練習
- ☆ ADLやIADLの維持・回復や動きやすい生活の提案
- ☆ 社会的交流のきっかけ作りや外出への動機づけ
- ☆ 介護負担の軽減・介護方法のアドバイス
- ☆ 福祉用具利用や住宅改修に関するアドバイス

6. 介護予防

要介護状態にならないように、又は介護が重度化しないよう予防する事
→ 残存能力を使用し、住み慣れた場所でイキイキと生活する事

- ① 評価・動かしやすい身体作りなど
- ② 住改・福祉用具の適合
- ③ 目標を設定する事・見つける事・つなげる事

忘れずに

ex：宇治市の場合…介護予防のための事業（介護保険サービス以外）

介護予防講座（口腔ケアや栄養など）や啓発活動

包括支援センター

転倒予防教室など身体作り

公社 民間スポーツジム

認知症予防教室など頭の体操や交流のきっかけ作り

公社 社協 学区

訪問（指導）

市健康生きがい課 包括支援センター 公社